

実施計画・事務事業評価共通調書

記入日 平成27年3月27日
所属部課名 市立病院事務局経営管理課

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 1

事務事業名	笠間市立病院改革プラン推進事業		評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画重点視点	補助単独区分	所管省庁		
			評価事業	重要事務事業	—			市単独		
総合計画体系	政策	3	共に支えあい、健やかに暮らせるまちづくり [健康・福祉]	新規・継続	継続		補助率			
	小政策	2	日々の健康を支える安心な保健・医療の体制を整えます	開始年度	終了年度					
	施策	1	保健・医療	事業期間	H27	H29		共催者・関係団体		
	小施策	4	医療体制の充実							
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	公立病院改革ガイドライン			
	病院	病院事業費用	医療費用			根拠法令				
			医療外費用				実施手法	補助金の有無	負担金の有無	
						直営	—	—		

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H26事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
総務省の「公立病院改革ガイドライン」に基づき策定した「市立病院改革プラン」を継承し、独自に「第3次市立病院改革プラン」を策定し計画を推進することにより、公立病院としての役割を果たすとともに経営基盤を強化し経営の安定化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 第3次病院改革プランの策定 医療機能の充実(患者ニーズへの対応、地域医療連携体制の強化) 経営の健全化(病床利用率の向上、経費の削減、医薬品購入費の削減、収入の確保、ICT化の推進等) 院内組織体制の強化 職員の意識改革(目標管理の徹底、職員の共通認識) 	<ul style="list-style-type: none"> 1日平均患者数 入院：22人 外来：105人 	
	H27事業計画	H28事業計画	H29事業計画
	<ul style="list-style-type: none"> 医療機能の充実(患者ニーズへの対応、地域医療連携体制の強化) 経営の健全化(病床利用率の向上、経費の削減、医薬品購入費の削減、収入の確保、ICT化の推進等) 院内組織体制の強化 職員の意識改革(目標管理の徹底、職員の共通認識) 	左に同じ	左に同じ

目的	①対象(働きかける相手・もの)	市民	④対象指標	市民	単位	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	公立病院としての役割を果たすとともに経営基盤を強化し経営の安定化を図る	⑤成果指標	1日平均入院患者数 1日平均外来患者数 基準外繰出金(病院運営補助金)		人 人 千円
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	医療機能の充実(医療機器整備、施設整備等) 経営の健全化(病床利用率の向上、経費等の削減、収入の確保等) 職員の意識改革(目標管理の徹底、院内勉強会の開催等) 第3次笠間市立病院改革プランの策定	⑥活動指標	入院診療日数		日
				外来診療日数		日

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																
		事業費	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)	28年度(計画)	29年度(計画)						
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円												
			県支出金	千円												
			地方債	千円												
			その他	千円	50,648	59,000	50,000	50,000	40,000	40,000	30,000					
			一般財源	千円												
		事業費計(ア)	千円	50,648	59,000	50,000	50,000	40,000	40,000	30,000						
	人件費	職員割合	人 千円	0	0.25 1,875	0.48 3,600	1.200 9,000	0.480 3,600	0.480 3,600	0.480 3,600						
時間外		千円														
嘱託臨時		千円														
他課の協力分		千円														
	人件費計(イ)	千円	0	1,875	3,600	9,000	3,600	3,600	3,600							
	トータルコスト(ア)+(イ)	千円	50,648	60,875	53,600	59,000	43,600	43,600	33,600							
		指標区分	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)						
活動指標	入院診療日数	日		366	365	365	365	366	365	365						
	外来診療日数	日		244	245	244	244	242	244	245						
対象指標	市民	人		78,862	78,279	77,723	77,351	77,351	77,351	77,351						
成果指標	1日平均入院患者数	人		14.8	14.9	17.6	22.3	24.0	25.0	26.0						
	1日平均外来患者数	人		95.5	97.4	100.8	105.1	103.0	104.0	105.0						
	基準外繰出金(病院運営補助金)	千円		50,648	59,000	50,000	50,000	40,000	40,000	30,000						

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 高齢化が進展するなか、市民が住みなれた場所で安心して生活ができるように、安心・安全な医療の提供が求められている。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	地域に密着した医療機関として、効率的な運営に努めるために必要な事業である。
	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	県立中央病院との連携強化を図り、毎週医療カンファレンスを行ったことにより入院患者を増やすことができ、また、物忘れ外来の開催や特定保健指導の実施、入院セットの導入などにより、新たな収入を確保することができた。
有効性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がある	採用医薬品の見直しやジェネリック医薬品の採用拡大により事業費の削減に努め、また、看護師や看護助手の非常勤職員の削減により人件費の削減に努めている。
	一次評価結果	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点) 市立病院改革プランは、公立病院としての役割を果たし、病院経営の健全化を図るための指針となるものである。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 課題なし
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民に安心・安全な医療を提供するため、現行どおり継続実施する。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

記入日 平成27年3月27日
所属部課名 市立病院事務局経営管理課

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 2

事務事業名	平日夜間・日曜初期救急診療事業	評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画重点視点	補助単独区分	所管省庁		
		評価事業	重要事務事業	○			国補助	厚労省	
総合計画体系	政策	3 共に支えあい、健やかに暮らせるまちづくり [健康・福祉]	新規・継続	継続		補助率	県立中央病院, 笠間市医師会, 県薬剤師会笠間支部		
	小政策	2 日々の健康を支える安心な保健・医療の体制を整えます	開始年度	終了年度					
	施策	1 保健・医療	事業期間	H22	単年度繰り返し				共催者・関係団体
	小施策	4 医療体制の充実							
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画			
	病院	病院事業費用	医療費用	給与費		根拠法令			
				材料費		実施手法	補助金の有無	負担金の有無	
				経費		一部委託	○	—	

1 【事務事業の全体概要及び背景】 市立病院, 医師会, 薬剤師会, 県立中央病院が連携し, 市立病院において初期救急診療を実施することにより, 笠間地区における医療サービスの向上を図るとともに県立中央病院との機能分担を明確にし, 市民が安心して暮らせる地域社会を推進する。	2 【H26事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】 平日夜間及び日曜日の初期救急診療 ・平日夜間: 19:00~21:00 (国民の祝日に関する法律に規定する休日及び12/31~1/3は除く) ・日曜日: 9:00~17:00 (12/30~1/3は除く)	3 【年度目標】 1日平均患者数 ・夜間診療: 2.9人 ・日曜診療: 36.3人	4 【事業費の内容(決算額)】 人件費 9,017千円 材料費 1,783千円 経費 2,118千円
	H27事業計画 同上	H28事業計画 左に同じ	H29事業計画 左に同じ

5 事務事業の目的と手段				単位
目的	①対象 (働きかける相手・もの)	市民	④対象指標	市民 人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか, どういう状態にしたいのか)	平日夜間と日曜日の初期救急医療により市民へ安心を提供する	⑤成果指標	1日平均夜間診療患者数 人 1日平均日曜診療患者数 人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	平日夜間診療: 19:00~21:00 (12/30~1/3は除く) 日曜診療: 9:00~17:00 (12/31~1/3は除く)	⑥活動指標	初期救急診療日数 日

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移															
		事業費	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)	28年度(計画)	29年度(計画)					
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	3,466	3,526	3,442	3,335	3,478	3,478	3,478				
			県支出金	千円											
			地方債	千円											
			その他	千円	14,098	15,184	16,818	9,583	17,522	17,522	17,522	17,522			
			一般財源	千円											
	事業費計(ア)			千円	17,564	18,710	20,260	12,918	21,000	21,000	21,000	21,000			
	人件費	職員割合		人 千円	0	0.10	750	0.14	1,080	0.225	1,688	0.225	1,688	0.225	1,688
		時間外		千円											
		嘱託臨時		千円											
		他課の協力分		千円											
人件費計(イ)		千円	0	750	1,080	1,688	1,688	1,688	1,688	1,688	1,688	1,688	1,688		
トータルコスト(ア)+(イ)			千円	17,564	19,460	21,340	14,606	22,688	22,688	22,688	22,688				
		指標区分	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)					
活動指標	初期救急診療日数		日	297	297	297	298	296	297	297					
対象指標	市民		人	78,862	78,279	77,723	77,351	77,351	77,351	77,351					
成果指標	1日平均夜間診療患者数		人	3.4	3.5	3.2	2.9	3.1	3.2	3.3					
	1日平均日曜診療患者数		人	40.3	38.1	37.1	36.3	36.0	37.0	38.0					

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》
休日や夜間の緊急時にも安心して医療が受けられるよう、地域の救急医療体制の充実が求められている。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である 地域の救急医療体制を守り、市民に医療サービスの向上と安心を提供するために必要な事業である。 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある 県立中央病院とのトリアージにより市民により効果的な診療を提供することができる。
	④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある 現在は、医師会・薬剤師会・県立中央病院が主体となって事業を実施していることから、人員の配置や診療時間などの変更の余地はない。
	⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	市立病院、医師会、薬剤師会、県立中央病院の連携協力のもと、笠間地区の初期救急診療を実施しているものである。
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
課題なし
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性（民間活動も含む）
他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 夜間と休日における救急医療体制を守るため、現行どおり継続実施する
	資源配分	現状維持	

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 全国的に医師不足の状況にあり、地域医療に従事する医師を養成する必要がある。
--

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全国的に医師不足の状況にある中、地域医療に従事する医師を養成する目的の事業であり、指導医の派遣により市立病院の医療体制も充実することから必要な事業である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	笠間市が筑波大学と単独で委託契約を締結しているため削減の余地が無い。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点) 地域医療に従事する医師の養成を図ることで、市立病院の診療体制が充実するので必要な事業である。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 課題なし
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる 市立病院の診療体制の充実を図るためには、筑波大学との連携により継続する必要がある。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) 他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	改善し、継続	評価理由 市立病院の診療体制の充実を図るため、連携の強化により事業を改善し継続する。
	資源配分	拡 充	

実施計画・事務事業評価共通調書

記入日	平成27年3月27日
所属部課名	市立病院事務局経営管理課

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 4

事務事業名	市立病院整備事業			評価区分	事務事業性質	建設・整備事業	後期基本計画重点視点	補助単独区分	所管省庁	
	評価事業			重要事務事業	○				市単独	
	総合計画体系	政策	3 共に支えあい、健やかに暮らせるまちづくり〔健康・福祉〕			新規・継続	継続		補助率	
		小政策	2 日々の健康を支える安心な保健・医療の体制を整えます			開始年度	終了年度			
施策		1 保健・医療			H26	H30	共催者・関係団体			
小施策	4 医療体制の充実									
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	市立病院建設基本計画			
	病院	病院事業費用	医業費用	経費		根拠法令				
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無		
						一部委託	○	—		

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H26事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
笠間市立病院は、昭和54年の全面改築以来30年超が経過し、建物の老朽化・狭隘化が著しく患者への負担となっている。また、建物本体は耐久性や火災時の対応など改善が必要であるため、「笠間市立病院整備方針」を策定し病院新築を決定した。当該整備方針を受け、『笠間市立病院建設協議会』が設置され、その答申を受けて「市立病院建設基本計画」を策定し、平成30年4月オープンを目指して行政機能併設型の新病院を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> 市立病院建設基本計画(行政機能併設型)の策定 市立病院等建設基本設計の作成(行政機能を含む) 	基本計画策定 基本設計の作成	委託料 21,924千円
	H27事業計画	H28事業計画	H29事業計画
	・市立病院等建設実施設計作成(行政機能を含む)	・市立病院等建設工事実施(行政機能を含む)	・市立病院等建設工事実施(行政機能を含む)

5 事務事業の目的と手段				単位	
目的	①対象(働きかける相手・もの)	市民	④対象指標	市民	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	市民が安心して医療が受けられるよう医療提供体制の整備を図る	⑤成果指標	1日平均入院患者数 1日平均外来患者数	人 人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	市立病院建設基本計画の策定 市立病院等整備事業基本設計の作成	⑥活動指標	入院診療日数	日
				外来診療日数	日

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移													
事業費		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)	28年度(計画)	29年度(計画)				
27	事業費	国庫支出金	千円						22,733	30,833			
		県支出金	千円										
		地方債	千円						27,700	396,600	673,500		
		その他	千円						25,118	368,580	460,903		
		一般財源	千円			122	21,924	63	10	80			
	事業費計(ア)	千円	0	0	122	21,924	52,881	787,923	1,165,316				
人件費	職員割合	人 千円	0	0	0.18 1,350	1.100 8,250	1.100 8,250	1.100 8,250	1.100 8,250	1.100 8,250			
	時間外	千円											
	嘱託臨時	千円											
	他課の協力分	千円											
	人件費計(イ)	千円	0	0	1,350	8,250	8,250	8,250	8,250	8,250			
トータルコスト(ア)+(イ)	千円	0	0	1,472	30,174	61,131	796,173	1,173,566					
指標区分		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)				
活動指標	入院診療日数	日			365	365	366	365	365				
	外来診療日数	日			244	244	242	244	245				
対象指標	市民	人			77,723	77,351	77,351	77,351	77,351				
成果指標	1日平均入院患者数	人			18	22.3	24.0	25.0	26.0				
	1日平均外来患者数	人			101	105.1	103.0	104.0	105.0				

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 地域医療の中で公立病院としての役割を果たし、市民により良い医療を提供していくためには、施設面の環境整備を図る必要がある。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	高齢化社会に向け市民が安心できる医療を提供するために必要な事業である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	目指す医療は、あくまでも重装備な急性期医療ではなく軽装備な医療に立ち、急性期を経過した患者の受入や在宅医療に専念していく。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がある	病院・保健センター・地域包括支援センターなどが併設することから、共用スペースの活用を促進し、施設の建設・維持管理・運営等についても、ライフサイクルコストまで考慮して極力経費の削減を図っていく必要がある。
	一次評価結果	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点) 事業の実施に伴い「笠間市立病院建設基本計画」を策定し、行政機能併設施設となるため関係各課と調整し基本設計を策定した。工事費等の上昇が見込まれることから、経費の削減を図りながらも、市民が安心できる医療体制の構築を図っていく必要がある。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 課題なし	フォローアップ 前年度の課題や問題点 ③前年度の改革・改善案	その他 ⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	④取組状況	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) 他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民に安心・安全な医療を提供するため、現行どおり継続実施する。
	資源配分	現状維持	